

## 第4回 子吉川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

開催日：平成27年 9月2日（水）

開催時間：13:00～14:00

開催場所：秋田河川国道事務所

### 参加者

氏名	所属等
石井 千万太郎	元秋田大学 准教授
井上 正鉄	秋田大学 名誉教授
小笠原 嵩	秋田大学 名誉教授
金 主鉉	秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授
嶋崎 善章	秋田県立大学 システム科学技術学部経営システム工学科 准教授
杉山 秀樹	NPO 法人 秋田水生生物保全協会 理事長
長谷部 誠	由利本荘市長（代理：建設管理課長 須藤 浩和）
松富 英夫	秋田大学 大学院工学資源学研究科 教授 附属地域防災力研究センター長

※欠席：永吉 武志（秋田県立大学 生物資源科学部アグリビジネス学科 准教授）

### 【議事概要】

- ① 子吉川水系河川整備計画の点検～事業の進捗状況～について
- ② 意見交換

### ●委員

- ・河川整備の関係で地域住民とのかかわりが一番重要だと思います。子吉川での鮎の競技（鮎釣り大会）やモクスガニ（ガニまつり）などのイベントを把握し積極的に小冊子、チラシ等を配布するなど広報していく必要があると思いますが現状はいかがかでしょうか？

### →事務局

- ・子吉川におけるイベントや行事については情報を入手しており、子吉川フェアや西滝沢水辺プラザでのイベント等においては人員を割いたり、広報資料を掲示・配布し

たりといった努力をしているところです。広報としてももう少し展開を図れるところがないか検討し、いい方向に進めたいと思っております。

●委員

・整備事業を行うとどうしてもネガティブなイメージがあるので、できるだけ積極的に広報をお願いします。

→事務局

・事業の必要性など十分に広報できるようにしたいと考えております。

●委員

・鳥海ダムのために発電が含まれていないことが不思議に感じます。最近、再生可能エネルギーの重要性が言われているところであり、検討の余地はないのでしょうか？

→事務局

・現在、鳥海ダムではダム基本計画の作成を進めているところであり、発電事業についてはこれから参画について照会の手続きを行うことになります。

→事務局

・地元の行政機関からも発電の参画について検討要望もあり、せっかくの有効落差ですので有効活用したいとの思いはあり、ぜひその方向でいければと思います。

●委員

・資料－３のp1にダムの３つの目的があり、これから外れている発電は位置づけが低いのでしょうか？

→事務局

・目的から外れているという訳でなく、現時点ではこの３つの目的が計画されているということであり、今後発電事業が参画する場合は４つ目の目的に発電がくると思います。発電事業は私たちの事業ではなく電気事業者に参画していただくかどうかということになりますので、発電が目的として低いということではなく、まだ決まっていないということになります。

●委員

・既存の電気事業者を考えているのかもしれませんが、自治体が事業者になることもありうると思いますので考慮していただきたい。自治体が事業者になれば収入も得られますし、秋田は資源が豊富であることもご存知のとおりですので、進めていただければと思います。

●委員

・鳥海ダムの水質ですが、一部酸性水が流入することからpHが重要なパラメータになるので、きちっと予測する必要があると思います。予測していかないと利水、特に水道水等に問題が出てきてからでは手遅れになります。

環境アセスの技術検討委員会において、検証を酸度というパラメータを使ってやるという話があり、pHと酸度はまったく違うものであることから違和感があると申し上げました。今の状態で進めますと酸度ベースのpHの予測モデルが決まり、その方向で予測が実施されると思うのですが、その場合pHが同じでも酸度は酸の種類（硫酸、塩酸、酢酸）により酸度が変わりますので、pHを酸度で推定するのは理屈的におかしいことになります。現在、こういった形で進んでいるのでしょうか？

→事務局

・貯水池の水質予測に関しては、環境影響評価の手続きの中で作業を進めております。pH及び4.3酸度、8.4酸度等を元に作業を進めていると聞いております。今後、予測に基づいて今後の貯水池の評価が出てくると思いますので、アセスの中の準備書、評価書、次のステップの段階でご指導をいただくことになるかと思っております。

水道の話もございましたが、現在の水道の計画は、貯水池から直接取水するのではなく、下流の宮内付近の河道からの取水であることを付け加えさせていただきます。

●委員

・生態系とかいろんな意味で下流に対する影響が大きいので、貯水池内の空間的な分布を踏まえた形での整理・検討をお願いしたい。pHが異なる水があわさると、意外と混ざらないことも考えられますので、今後のダム湖の運用や利水の観点からきちっ

と検討されたほうがいいと思います。

●委員

- ・ダム湖完成したときに酸性水と普通の水が混じりあいますが、計算上の希釈はどれくらいになるのでしょうか？まだ計算していませんか？

→事務局

- ・現況のpH 値は平均で、酸性河川である朱ノ又川が合流する下玉田川で4.5くらい、法体の滝があるところで5.5、ダムサイトまで流下すると6.1となっています。これから貯水池に置き換えたときの予測計算をしていくことになります。

●委員

- ・川の癒しのストレスへの効果についてピンときません。34名にストレスがあり、その中の19名が癒しの効果でストレスが低下したとありますが舌足らずではないでしょうか。これは国土交通省の職員が直接、患者さんにヒアリングしたのでしょうか、それとも医師の判断でしょうか。

→事務局

- ・癒しの川効果については、川裏にある本荘第一病院の医師、看護師により平成12年以降につくられている癒しの川の療養に関する効果検討というような団体（組織）があり、癒しの川を認知症の患者さんのストレスの低下に生かせないかという取り組みがされているところです。この先生方の団体のなかで、癒しの効果がどのように評価されるのかというと、唾液に含まれるアミラーゼという成分を癒しの川に訪れる前と後での変化量を見て、アミラーゼが癒しの川を訪れて低くなればストレスが低下し効果が認められるであろうと、ここ何年か計られたデータです。本荘第一病院より公式にデータを提供していただいております、効果が100%結論付けられるかわかりませんが、現段階では癒しの効果が得られる施設として位置づけられるのではということで資料につけさせていただきました。

●委員

- ・そのように根拠のあるデータであるのしたら、出典を明らかにしておくべきだと思います。

→事務局

- ・わかりました、今後そのようにいたします。

●座長

- ・資料－２のp13を見ますと平成19年、20年、21年に（堤防の）質的整備を行っておりまして、飛びまして25年度に行っております。そうしますと22年、23年、24年は浚渫のほうに力を注いだという意味合いでしょうか？

また、資料－２のp12ですけれど、スライド掘削で、掘削後計ったら一年弱で1.4%の断面積縮小となっている。30年の計画で、今は10年目くらいですから、今後20年続くとして年単純計算で28%の断面縮小、そうはならないのでしょうかけれども、うまくいっているということでしょうか？また、断面縮小1.4%はこの断面だけの判断でしょうか、複数断面の平均で1.4%なのでしょうか？

→事務局

- ・整備手順についてお答えします。子吉川の河道整備については市街地部の人命・資産を守ることを最優先に、その区間にかかる河道掘削を中心的に進めてきており、河口部から芋川の合流点、その次のステップへという形で進んでいきます。

堤防の質的整備については、河道掘削に平行して旧本荘市街地部の整備を進めていくということで平成17年以降21年までに本荘地区、岡本地区で実施してきています。なぜ25年に久保田地区の整備を行ったかということ、旧由利町市街地部に近接する堤防であり、上下流のバランスや守るべき人命・施設を総合的に考えたうえで平成25年度に久保田地区の質的整備を進めました。今後は、河川整備計画に則り河道掘削等を進めていながら、質的整備も行い子吉川全体の治水面でのバランス向上に寄与できるような事業の展開を計っていきたいと考えています。

→事務局

- ・スライド掘削の今回の評価については、3.2kの断面のみでの評価となっております。
- 他の部分については、今後モニタリングをして状況をご報告したいと思っております。

●座長

- ・全国的に珍しいので、しっかりしたモニタリングをお願いします。

●委員

- ・水質の観点からですが、河道掘削を行って今年のように濁水が長く続きますと一般的には水質は悪くなります。事務局から平成元年や濁水期のデータをいただき見ましたが、水質の劇的変化がまったく見られなかった。河道掘削と水質で、それほど気にするほどはないと思います。